

こっと☆本の宅配便 7月号

発行元 下関市立彦島図書館 〒750-0075 下関市彦島江の浦町1丁目4-2 8
Tel : 083-266-5086 Fax : 083-266-5337



アウトドア

7月の 展示テーマ

アウトドアに関する本を集めました。
これからの季節におすすめです。ぜひご利用ください!

- 📖 「Premium BBQ」 榊 幸治／著 三栄書房 2012.10
- 📖 「アウトドアでホットサンド」 蓮池 陽子／著 山と溪谷社 2020.2
- 📖 「山女日記」 湊 かなえ／著 幻冬舎 2014.7
- 📖 「田沼スポーツ包丁部!」 秋川 滝美／著 幻冬舎 2018.11
- 📖 「ソロキャンプ入門」 JTB パブリッシング 2021.3
- 📖 「山菜採りの教科書」 大海 淳／著 大泉書店 2012.2



彦島図書館 館長の今月のコラム

今月は、私の本との出会いについて、です。

本を読むようになったのは、小学5年か6年生の時、校内の図書室で、たまたま手に取った、ルブラン原作の「怪盗ルパン」を読んだ時からです。

とても面白くて、置いてあったシリーズの全部を読みました。

高校1年の時は、仲の良かった野球部の友人が、今風に言うと、「号泣するぞ」と1冊の本を紹介してくれました。坊主頭のいかつい顔の友人を号泣させたのは、三浦綾子の「塩狩峠」です。もちろん私も号泣しました。

学生時代は、大藪春彦の伊達邦彦シリーズにはまり、森村誠一の棟居刑事シリーズもずいぶん読みました。

社会人となってからは、小説よりも実用書を読むようになりましたが、現在、様々なジャンルの本に囲まれて仕事ができることに、密かに幸せを感じています。

7月図書館カレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

開館時間

9:30~18:30

休館日

8月図書館カレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

☆7月29日・8月26日(金)は
館内整理日のため休館いたします。

／今月のおすすめ！／



新着案内



〈児童〉「りりかさんのぬいぐるみ診療所」

かの ゆうこ/作 北見 葉胡/絵

講談社



壊れたぬいぐるみを治療する「りりかぬいぐるみ診療所」。心によりそうように直してあげているりりかさん。ぬいぐるみは自分が愛されるためでなく、持ち主を愛する事を、いつまでも幸せで、笑顔でいてくれる事を、ぬいぐるみ達が望んでることを、知ってるりりかさん。読んでいく内にりりかさんの秘密も解るのです。

〈一般〉「おいしいカクテルの図鑑」

鈴木 隆行/監修

成美堂出版



カクテルとは、ベースとなるお酒に他のお酒やジュース、レシピによってはフルーツなどを加えたものを指します。

本書ではカクテルの作り方からお酒の種類、各カクテルの配合が写真付きで載っています。作ってみたい人はもちろん、カクテルの種類に興味のある方にもおすすめです。

〈児童〉「ともだちはしおりのこぶた」

真山 みな子/作 山西 ゲンイチ/絵

金の星社



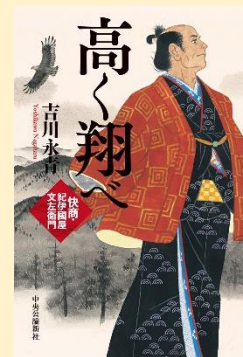
図書館で絵本ではない物語の本を初めて借りることになった女の子まゆちゃん。

はじめてひとりで本を読み進んでいき、読んだところまで貰ったしおりを挟んでみたら絵のこぶたが突然動いて…！？しおりから飛び出したこぶたのぷーもと一緒に本を読み進んで行くことでときどきわくわくするお話です。

〈一般〉「高く翔べ 快商・紀伊國屋文左衛門」

吉川 永青/著

中央公論新社



紀州で生まれた文吉は、幼い頃、巨大な廻船を目にする。そこで、腕を失っても鯨捕りになったことを後悔していないという男から、この巨大な廻船の航路は“同郷の商人”が開拓したと聞き、憧れを抱く。

江戸随一の商人となりながら、一代で店を閉じた謎の商人、“紀伊國屋文左衛門”の生涯を描く。“豪商”ではなく“快商”。読後に納得するはずです。